

1983

チェッカー：江夏正晃
(作・編曲家、プロデューサー、エンジニア / marimoRECORDS)

¥37,000

問：(株)アンブレラカンパニー

TEL：042-519-6855

http://umbrella-company.jp/

自動チューニング機能と多様なコンバート機能を備えた ポリフォニックのMIDI to CVインターフェイス

純然たるポップミュージックなど、「音階」に則った音楽制作や演奏をする際に、モジュラーシンセをどう活かすか。この悩みは、モジュラーシンセを触ったことのある人にはわかってもらえるでしょう。ハードの機材やプラグインシンセで簡単に行なえることが、できなかつたりするわけですから……。ただモジュラーには、それらの便利なシンセにはない、深い魅力があるのも事実。

そんな両者の魅力をつなげてくれるのが、MIDIインターフェイスです。現在は各社から、MIDI鍵盤やPCと接続するために、たくさんのモジュールが発売されていますが、この「1983」はちょっと変わった側面を持っています。なんと、モジュラーでは珍しい、自動チューニング機能を備えているのです。

操作は至って簡単。まずは1983のCVアウトを、オシレーターのCVインにつないでから、オシレーターを適当に低い周波数に合わせます。次に、オシレーターの出力を、1983のLISTENインに入れます。そして「TUNE」というボタンを押して、待つこと数秒。これで、音色が完璧にチューニングされるのです！

この1983は、MIDI/CVコンバーターという基本的な機能はもちろん、絶対的なチューナーとして、目からウロコのモジュラーなのです。もう「モジュラーシンセはチューニングが面倒くさい！」といった問題からは解放されます。

そして驚くことに、本機が行なえるコンバート機能は何と8種類！ 4ボイスポリフォニック、3ボイスポリ+モノボイス、2ボイスモノ+ベロシティ、4ボイスモノフォニック、8つのゲート、4つゲート+ベロシティ、8つのCCチャンネル、4chのクォタイザーです。MIDIインターフェイスのモジュールで考えられることの、ほとんどができると言っても過言ではないでしょう。

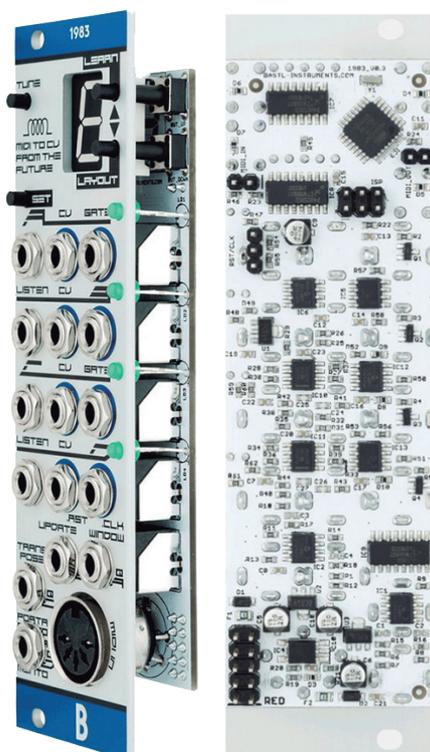
また、こういったインターフェイスモジュールでは珍しく、マイクロチューニング機能を搭載しています。平均律や純正律はもちろん、カスタムチューニングも可能で、作成したスケールはプリセッ



トとして保存することもできます。さらに、本体の下部に4つ用意されたCV入力を使えば、アルペジエーターやシーケンサーとしても機能します。できることが多い分、シンプルなインターフェイスを使ってこれら进行操作するためには、メニューの階層や7セグのディスプレイの記号を、しっかりと予習&理解しておく必要がありますが、一度理解すれば操作は簡単です。1983は、モジュラーを音楽的に展開させることができる、かなり強力なユースティリティモジュールです。すでに

【製品概要】

「1983」は、ボイスアロケーションと自動チューニング機能を備えた、ポリフォニック仕様のMIDI to CVインターフェイスだ。4チャンネルのLISTEN入力と、CV&GATE出力を搭載。TUNEボタンを押すと、接続された外部オシレーターの波形を分析して、各オシレーターを7オクターブにわたって自動でチューニングすることができる。平均律や純正律など、様々なチューニングの音楽に対応可能だ



【SPEC】 ●入出力端子：リッスンイン×4、CVアウト×4、CVイン×4、ゲートアウト×4(以上3.5mmミニ)、MIDIイン ●消費電流：+12V：<60mA、-12V：<20mA ●外形寸法：7HP(幅)×24mm(奥行き) ●重量：○○○g

MIDI/CVコンバーターを持っている人も、自動チューニング機能をはじめ、今までのコンバーターとは違った新しい可能性を探ることができるでしょう。

ちなみに本機の名前は、シーケンシャル・サーキットProphet 600とローランドJupiter-6をシンクロさせてデモが行なわれ、MIDI規格が世界で初めてお披露目された1983年のNAMMショーに由来するそうです。誕生から35年以上が経った今もMIDIが進化し続けることに、モジュール型を含め、シンセサイザーの可能性を感じさせられますね。